

Northamerican B-25B

タミヤ 1/700スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1. B - 25について

ノースアメリカンB - 25「ミッチェル」は第二次世界大戦において一万機以上も使用され、中型爆撃機の傑作として名高い。空中での性能もさることながら、機体が堅牢で離着陸が容易である事もその評価を高めている（同時期に使用されていた双発爆撃機のB - 26「マローダー」が、その困難な離着陸操作から「朱亡人製造機」と揶揄されていたのとは対照的である）。1939年に制式採用以来着実に改良が続けられ、最終生産型にあたるJ型では12.7[mm]機銃12門と爆弾1.3[t]余りを搭載することが出来た。爆撃型以外にも練習機・哨戒機・偵察機等の派生型が存在する。

本機の参加した最も有名な作戦はドーリットル攻撃隊による日本初空襲であろう。この作戦は航空母艦からの発艦訓練を積んだ16機のB - 25B（銃座を撤去する等して軽量化し燃料搭載量も増加された）でもって空母「ホーネット」より発進して日本主要都市を爆撃するというもので、戦果はともかくアメリカ国民の戦意高揚に大きく貢献した。

2. キットについて

いつ頃の開発かははっきりしませんが、もともとウォーターラインシリーズのホーネットに同梱されていたものです。現在はバラ売りもされています（今回はこちらを使用）。16機セットで機体は一体成型、機体以外の部品は有りません。バラ売り版の箱にはホーネット搭載機・イギリス空軍機・ソビエト空軍機の塗装例が紹介されていますが、付属するデカールはホーネット搭載時の国籍マークのみです。

3. 製作と塗装について

サイズがサイズだけに、今回はひたすらシルエットを似せることと丁寧に作業をすることを目標としました。まず重要なのが素材選びで、少しでも成型状態の良いものをジックリと選別するのが後々良い結果に繋がります。主翼付根にあるヒケにエポキシパテをすり込むようにして盛り、エンジン後端と機首下面にもパテ盛りを行っています。全体の凸モールドは試しに削ってみたものではのっぺりしてしまっただけでそのままにしています。プロペラと前脚は旧スカイウェーブの月光のものを流用、主脚はキットの脚柱にコトブキヤのリベットパーツです。

全体に吹いたグンゼサーフェーサー1200の上から上面色のオリーブドラブを筆塗り（タミヤエナメルカラー）。下面はスケールを考慮してサーフェーサーのままとしています。プロペラとタイヤは黒、脚柱はクロムシルバー、その他エナメルカラーを塗ってはクリアーでオーバーコートを繰り返しました（剝落防止の為）。キャノピー部分は黒の油性マジックで塗り分けた上にガンダムウェザリングマーカールのシルバーを薄く重ねました。デカールはピットロードの国籍マークを奢り、最後に全体にモデラーズのつや消しクリアを吹いています。

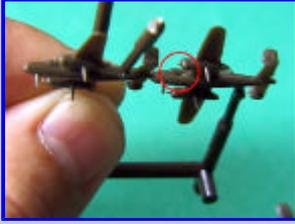


上面

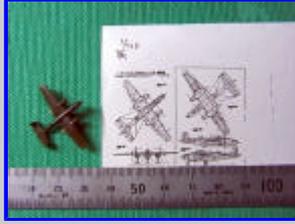


下面

4. 製作過程



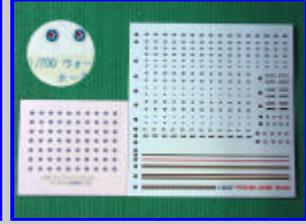
成型の都合でヒケが見られる。赤丸に見られる、ヒケの大きなものは避ける。



仕上がり寸法に縮小した三面図との比較。とにかく小さい。



機首下面とエンジンをボリユームアップ。プロペラは同スケールの月光のもの。



キットのデカール(左)は色ずれが大きいのでピットロードのデカールを使用した。